

『舞台』

～名も無き『一流』の背中、道標に、僕は今日も往く～

Produced by takumaro

<https://www.factory-takumaro.com/>

2017.05.12-2017.05.15, 記

『TAKUMARO'S MAGAZINE』, Vol.1

『舞台』 2017.05.12-2017.05.15

『舞台』と国語辞典を引くと…

『舞台』（意味）：（劇場などで）役者が演技する場所として設けられた、見物席より一段高い場所。～新明解国語辞典、第6版 p1304～

とある。また、派生する単語も色々ある…

『舞台監督』、『舞台芸術』、『舞台装置』、『舞台度胸』、そして、『舞台裏』…

個人的に…

「どうも…『舞台』という単語と、『舞台裏』という単語が…」

心に引っかかる。上記にある、国語辞典の『舞台』の項を何度か読み返して、僕自身が納得のいく意味を与え直してみる。

『舞台』…普段の努力や稽古の賜物、練りに練った、その人の『芸』を披露する、晴れがましい場所、相応しい場所…

自画自賛ではないが、これから描こうとする内容に合った意味を与える事が出来た。この上記に提示した意味を、（僕なりに）現実と照らし合わせてみる。細かく、3つに分けて照らし合わせて観る。

『普段の努力や稽古の賜物』

の意味するところは、その人に、成りたいものや、目標、就きたい職業などがあって、その目標などを完遂させるために邁進する。という事である。邁進の仕方は、方法も込めて人様々になる。（以下の「…」では実際にどういう努力をしなければならぬのかを、あなたは、想像してください。）

「医者になるために…」

「歌手になるために…」

「アイドルになるために…」

「料理人になるために…」

「(学校の)先生になるために…」

幾らでも、例が挙げられるが、取り敢えずこれぐらいにしておく。で、もし、あなたが、念願が叶って

「医者として、(とある)病院に勤務している。」

とか、

「(オーディションに合格をして) アイドルとして活動を始めた。先日、初めて『劇場』に立った。」

とか、

「(学校で) 先生をしています。」

あなたは、既に

『『舞台』に立っている。観客を前にして『芸』を披露している。』

その事実を理解して、今後の更なる活躍を期待する。一流の医者、一流のアイドル、一流の先生を目指して、努力と稽古を続けてほしい。

次に

『芸』

が意味する処を提示したい。医者ならば、医術。つまり、怪我や病気の人を治療する事が出来る技術。これが、『芸』の意味する処である。アイドルならば、歌って、踊って、可愛く、カッコよく魅せて、観客を惹きつける技術である。その立場、地位、職業に応じて確かに様々な

『芸』

という物が存在している。努力と稽古を続けて磨くものが、この

『芸』

になる。ちなみに、僕の場合の(今の)『芸』というものは、こうした

『描く』

という事になるのだろう。

最後に『舞台』その物を意味している

『晴れがましい場所、相応しい場所』

について説明をしたい。もし、アイドルグループならば、

「横浜アリーナ」

「日本武道館」

「中野サンプラザ」

などなどになるのだろう。ただ、これは、有名な(社会的に多くの人に認知されている)一流が通る登竜門の一つにしか過ぎない。そして、一流にも有名と無名(社会的に多くの人に認知されていない)の2種類が存在している。ちなみに、これは、僕の個人的な感じ方だが

『国家としての体だけを見せて、まるで、国としての誠実さや、美学を感じないこの国が、何で『国』として、成り立っているのか?』

というと、

『圧倒的な多数の、無名の一流が、街の至る所に存在しているから。』

だと感じている。有名か、無名かはともかく、これを読んでいるあなたが一流である事を僕は願う。でなければ、1日も早く一流になってほしい。そうでなければ、本当に、この国は終わってしまう…まあ、僕に関する処でもないのだが…

話を、本筋に戻して、実は、『舞台』という場所は、色々な処に用意されている。あなたに機会と機縁が在るのなら、どんどん『舞台』に上がって、今のあなたの出来る最高の『芸』を披露してほしい。『芸』そのものを、努力と稽古を続けて磨く方法もあるが、『舞台』に上がる事に依ってより、あなたの『芸』が磨かれるはずである。また、『舞台』の上からでない観えない景色も在るはずである。だから、あなたに機会と機縁が在るのなら、どんどん『舞台』に上がってほしい。その時に、その『舞台』があなたにとっての

『日本武道館』

に相当する『舞台』であるかもしれない。その瞬間を見極める能力や感性を、普段からの努力と稽古を続けて磨がいてほしい。

伝わる事を願うが、同じ内容の事を戦国時代の

『戦（読者は『舞台』と解釈する事を願う）』

で例えるなら、必ず、分岐点となる『戦』がある。以下は戦から生まれた言葉だと僕は考えている。

「桶狭間」

「天王山」

「関ヶ原」

それぞれに意味する処を今は細かくは述べないが、あなたが、今立ち続けている、その『舞台』が、あなたにとっての

『何！？』

に相当するの…それを見極める能力や感性を、普段からの努力と稽古を続けて磨がいてほしい。

さて…僕は『舞台』を

『晴れがましい場所、相応しい場所』

として説明をし、最初は例として、有名なコンサート会場になる場所を幾つか挙げた。そして、次に『舞台』を戦国時代の『戦』に例えて説明をした。誰もが、薄々は気付いているけれど、語らない部分についての話に入りたいと思う。内容は、吐き気の催す、嫌な話だが、理想を掲げるだけでなく、現実も見据えなければいけない。

『舞台裏』（意味）：舞台の裏の見物席から見えないところ。（物事が行われる裏

面の意にも用いられる。) 例、「舞台裏工作…」
～新明解国語辞典、第6版 p1304～

僕は、先に…

『あなたに機会と機縁が在るのなら、どんどん『舞台』に上がってほしい。』

と書いたが、現実には、この国に特有の

『舞台に立つための無駄な手続き』

が、色々な形で存在し、あなたの前に立ちはだかる事になる。

「(学校への) 入学試験」

「(会社への) 採用試験」

挙句の果てには、お墨付きやら、折紙つきを求めてきたりする。しかも、

『舞台に立つための手続き』

に正当性や公平性を疑いたくなる事もある。そもそも、公平性という物は、この国、この社会には存在しないようである。何故なら、旧態依然で、至る所に『権威』、あるいは『権力』というものが蔓延っている。だから、僕は

『舞台に立つための無駄な手続き』

と言っている。ここまでを聞いて、あなたが…

「世の中って…そんなもんでしょ…」

と言いきり、そして所謂（上記の意味での）

『試験勉強』

が出来るのなら、それは本当に才能だと僕は思う。引き続き、その『試験勉強』とやらを続けてもらって合格をして、『舞台』に立つ権利を獲てほしい。但し、まかり間違っても、仮に試験に合格したからといって

『自分は選ばれた人間だ!!!』

とは思わない事だ。事實は

『運が良かっただけである。』

天運、地運、人運、気運、機運、(まだまだ在りそうだが) … それらの巡り合わせが、ただ良かっただけである。僕は、あなたの努力を否定しているのではない。念のため。また、合格しなくても、そもそも大したことではない。ちなみに、あなたの努力を否定しているのは(在るとするのならば…)

『とあるシステム』

である。

さて、今、僕は

『運』

の話をしたのだけれど、確かに『運の良し悪し…』はこの世に在るようである。

但し、ここに上記の

『人運』

は入らない。何故、僕が『人運』の話を始めたのか…

現実に、この国に特有の

『舞台に立つための無駄な手続き』

が、色々な形で存在する。

『誰を舞台に立たせるのか…』

という選定をする。その選定をするのが

『権威者や権力者になる。』

つまり、人によってなされている。その選定をする人が（大抵の場合は、権威者か権力者だが）ちゃんと、観る能力を保持し、責任を全うしているのならば、僕に異論はない。ただ、残念な事は、観る能力を保持し、責任を全うしている人達は、僕が、これまでに感じて来た限りでは、どうも別世界に存在するようである。僕は、観る能力を保持し責任を全うしている人の存在は否定しない。何故なら、僕が、そう感じる人に、これまでに何人かに出会っているから。しかし

…

いつの時代もそうだが、本当に…

『権威者や権力者は、巧みである。その社会の根幹を掌握し、そのシステムを維持するために、『舞台』に立たせる人間を選定する。その権利を握り続けている。しかも、それらを含んだシステムを絶えず自分たちの都合の良いようにアップデートを繰り返している…』

先に述べた

『旧態依然で、至る所に『権威』、あるいは『権力』というものが蔓延っている。』

とは、こういう事である。先に述べた、（あなたの舞台に立つまでの）努力を否定しているものの実態である。そして、権威者、権力者ではない人達は、その事を熟知もしているのだろう。それとも、僕が非常識なのだろうか…

「管理職に、盾突いたり、噛みついたりするのは止めろ…」

僕に、こう言った人達は、どういう意味で僕に言っていたのだろう…どうも、僕は、彼らのような健全な精神を持ち合わせていないらしい。僕には出来ないけれど、あなたが、もし出来るのなら

『偉い人に、気に入られなさい。可愛がられなさい。』

そう言えば、彼は（僕が出会ったある人物）、こんな事を言っていたよな…

「良い企画だから、良い考えだから、それらが実行に移されるわけではないんですよ。全ては『政治的』に決まっているんです。」

…

「え？何の話をしているのかって？あなたが、『舞台』に立つまでの

『舞台裏』

の話をしていたつもりなのだけれど…」

「可愛いです。歌唱力もあります。ダンスも出来ます。話（トーク）も出来ます。…その女の子は、アイドルとしてデビューしたのでしょうか…？」
そういう事です。

「兎に角さ…先ず『舞台』に立つ…その事を優先すべきでしょ…」
そういう考えも、解らないのではない。ただ、僕の場合は、僕の哲学！？あるいは、美学！？誇り！？…等々が、僕自身の事を決定（邪魔）しているようである。

幸いな事は、努力や稽古は、あなたが諦めない限り続ける事は出来る。僕も勉強は続けている。こう書くと

「だったら、あなたも『試験勉強』をすれば良いのに…」
とあなたが、思うかもしれない。

「いやいや、『勉強』は続けるけれど、勉強の体を騙った『試験訓練』なんかは、僕なんか時間の無駄にしか思えなくて、馬鹿らしくて出来ない。ましてや、『訓練』である。健全な思考を奪うような事を自ら率先してやろうとも思わない。それよりは、こうして『描く』事を進めた方が良い…」

僕は、今

『健全な思考』

と描いた。似たような言葉で、上記とは逆の意味で用いた表現をした箇所もある。何が『健全な思考』なのか、何が『健全な精神』なのか、どう判断するかは、あなたの方で判断してください。

『舞台』という物に準えて、ここまで話を進めて来た。実際に、『舞台』に立つまでに、『舞台裏』から様々な圧力が在ったりもする。ちなみに、僕の場合は、かつては、この記事でいう処の『舞台』には立ってはいた。ただ、ご覧のとおりである。さらに、この性格である。今は、これまでのような『舞台』には立っていない。残念ながら、

『観る能力を保持し、責任を全うしている、権威者、あるいは、権力者に、出会う『縁』が獲られていない。』

ちなみに、僕が観て来た権威者、権力者の殆どが

『都合が悪くなったら、正論を語る者を、『悪人』に仕立てあげてしまう。』
そういう事を平然とやる人達ばかりだった。彼らは、僕になんと申し開きするかは知らないが、少なくとも、彼らの手によって作られて与えられてしまった僕の評価は

『悪人（犯罪者と解釈してもらって構わない）』

である。今、僕がここで描いた内容に関しては、少しずつ動いていこうと思う。

「いずれ、何らかの結末を観に行く事にしよう…」

これを、読んでいるあなたに解るように説明すると

『大人の事情』

という事になるのだろう。大人でない、僕が言うのも変な話だが。とにかく、個人的には、そういう状況なので、僕は、これまでのような『舞台』には立ってはいない。

『出る杭は打たれる！』

『出る杭は伐られる！』

多分、色々な表現がある。この記事の内容に合わせれば、

『舞台から締め出す！』

『舞台から引き摺り下す！』

と言ったところか。

…

先に、僕が描いたことを、一緒に復習してもらいたい。

『伝わる事を願うが、同じ内容の事を戦国時代の

『戦（読者は『舞台』と解釈する事を願う)』

で例えるなら、必ず、分岐点となる『戦』がある。以下は戦から生まれた言葉だと僕は考えている。

「桶狭間」

「天王山」

「関ヶ原」

それぞれに意味する処を今は細かくは述べないが、あなたが、今立ち続けている、その『舞台』が、あなたにとっての

『何！？』

に相当するのか…それを見極める能力や感性を、普段からの努力と稽古を続けて磨がいてほしい。』

ここに、説明をするのに欠けていた戦から生まれた言葉を付け加える。

「本能寺」

この言葉の意味は、ここで与える。(勿論、この記事の内容に合わせた、僕なりの意味の提示である。)

『本能寺』(意味)：①自身の実力や能力、『芸』に慢心をして、舞台から引き摺り降ろされる結果を招く事。②権威者、権力者、社会が、都合の悪い存在、目障りな存在を、その舞台から引き摺り降ろす事。

最近は、個人的な行き過ぎた『趣味』の中で、僕は生きている。多分、僕の場合は、こうして『描く』こともそうだ。僕の立ち居振る舞いは、大人ではない。所謂、『社会』にも属していない。僕は、非国民なのだろう。今のような、国の、国が求める国民になるのは、御免である。僕は、社会不適合者なのだろう。

「なんで、皆、社会に適応するのだろうか…」

「生活があるからか…守る物が在るからか…生きて往かなければならないからか…」

「健全な、思考を奪われて、『国』、『社会』、『組織』、…様々なものに恫喝され続けて、それでも、生きて往く事って、それでも守りたい物って、どういう事なのだろうか…」

僕には、理解できない。権威者、権力者達は、本当に都合の良い巧い社会システムを構築した。

「生活をしたいだろ？」

『派遣労働者、非正規雇用…』

これらは、彼らが生み出したものである。彼らにとっては、2重の利点がある。個人的な疑問なのだけれど…

「余ったお金は、何処に流れているのだろうか？誰が笑っているのだろうか？」

そして、彼らのお得意な技術がある。

『プロパガンダ』

『post-truth』

『真実後』

『もう一つの事実』

そして、

『本能寺』

今に、始まったことではない。この日本という国に限定した歴史を振り返っても、この上記の単語の事例に相当するものは沢山観る事が出来る。

あなたにも、生活がある。守る物が在る。だから

『舞台に立ち続けなければいけない。』

なので、

「管理職に、盾突いたり、噛みついたりするのは止めなさい。」

そして、

『偉い人に、気に入られなさい。可愛がられなさい。』

あなたは、そうすべきなのだろう。出来るのであれば。僕には、どう頑張っても出来ない事なのだけれど…

さて、今の僕の状況は
『舞台から締め出された！』
『舞台から引き摺り下ろされた！』
と言った状況にある。そして、僕自身は、現実と虚構の狭間に身を置いている。
また、僕自身は、今、こうしてしている行動（『描く』という事もそうだが）は、
僕の中での、ある特殊な目的のために続けている。
「どんな状況でも、目的や目標が生まれるんだ…そこへ向かう原動力と共に…」
自身を返して、『人』という物の本当の不思議さを感じる。
『舞台に立てなくても出来る事は確かに在る』
そう感じて、ここまでやって来た。
「舞台に立てないんだろ！そもそも、上げさせても、もらえないんだろ。何が
出来るっていうんだ？」
この記事で、先に『運』の話は僕はした。僕は、自身の感覚として、天運、地運
という物を感じている。何をもって、僕はそう主張しているのか…

『今、あなたが、観ているページは
<https://www.factory-takumaro.com/>
なのだけれど、

「takumaro」

と検索をすれば、Google や Bing では、トップにこのページが表示される。他
の、検索サイトでも、上位に表示される。(2017.05.15 現在で)

「takumaro」

とは、何か？僕が、自分で付けた、僕自身の名である。』
(僕自身の『名』の話は、別の機会に改めてする。)

『運』頼みの話は止めた方が良くないかな…言い換えるとしよう。
「上がる舞台がなければ、その舞台を自分で創れば良い。」
あなたに、解るように言えば
「あなたの仕事を、あなた自身で創れば良い。」
そういう事だ。但し、先に述べたような社会構造である。
『舞台を壊しに来る奴は、必ずいる。(企画をつぶしに来る奴は必ずいる。)]
そしてまた、
『舞台を奪いに来る奴も、必ずいる。(仕事を奪う奴も必ずいる。)]
少なくとも、僕は、ある人の舞台を奪い去った人の1人である。公平な、競争社
会と言えは聞こえは良いが…ここまでの、状況を見ても本当に様々な観点で人

間の限界を感じさせられる。

「歴史は繰り返される…」

とは、そういう事なのだろう。そして、もう一つ、国家、組織、社会、そして、それらの、最小単位の、個人、においてまで、それぞれに光と影が存在する。つまり

「戦争は無くならない…」

そこまで、解っていても、僕は、僕自身のある特殊な目的のために、『描く』という事を続けて往くのだろう。

少なくとも、それぞれが、どう考えて、どう行動を積み上げていくのか…僕もそうだし、あなたも、そうだけれど、行動の選択の自由は確かにある。だから、あなたの行動は、あなた自身が決めるしかない。

最後に、この記事で、言葉の意味を与えなければならない単語が随所にちらばっている。その中の一つの単語に意味を与える。

『一流』(意味)：自身の置かれている、地位、立場、状況を的確に判断出来るだけの『観る』能力を保持し、道徳、倫理、法律にかなった自身の美学、哲学に基づいた行動をする事が出来て、その上で、自身の責任を全うしている人物。

これは、僕なりのこの記事の上での意味付けである。ここで、この『一流』の具体例を提示することはしない。そして、『一流ではない』というものは、説明をするまでもないのだろう。こちらは、至る所に具体例が溢れている。

「えっつ？例を挙げろ？」

…

以下は、あくまで、僕個人の解釈になる。

『政治家』(意味)：自身の置かれている、地位、立場、状況を的確に判断出来るだけの『観る』能力を保持し、自身の美学、哲学に基づき、道徳、倫理、法律を全く無視した行動をする事が出来る人達。そもそもの、地位、立場、状況から派生する責任を全く無視する事が出来る人達。反面教師としての最高の例。

政治家にも、色々な人が存在する…と信じたいが、現実では、テレビなどで観る事の出来る彼らの行動の…

『彼らの行動の逆…』

というものを、イメージ出来れば、

『一流を目指す』

あなたが、取るべき行動は、おのずと解って来るものだと思う。政治家の存在そのものを否定するのはどうかと、僕も思った。確かに、彼らは、僕の中では軽蔑の対象でしかない。しかし、物は考えようである。ある意味では、物凄い存在価値を発揮している。

『一流』という、意味の提示だけではなく

「『一流』に（あなたが）なるために、どう行動すれば良いのか？」

そのヒントになると考えて、僕の個人的な解釈を紹介した。政治家だけではない。政治家みたいな人達は、実際にたくさん存在している。

僕が、『一流』という評価を獲ているのか、既に『一流』なのかは、置いとくとして、とにかく、僕は、『一流（先に描いた意味での）』を道標に勉強を続けて往こうと思う。僕にとっては、これまで通りの努力と稽古を続けて往くだけなのだけれど。

あなたが、『一流』を目指すかは、『一流』に成るかは、あなたが、決めて下さい。

「(もしかしたら、あなたは、もう、既に『一流』なのかな?)」

「(『一流』でない、人が、『舞台』に立っているのは、どうもな～)」

「(『一流』を騙っている人は、沢山いるみたいだけれど…)」

最近、どうも独りで呟いている事が増えてしまったようだ。

2017.05.12—2017.05.15, 記

著者：琢麿(takumaro)

が、思う処、感じる処があって、自身で造り上げた『舞台』

『TAKUMARO'S FACTORY』

<https://www.factory-takumaro.com/>

より、この記事（情報）を発信する。(2017.05.19)

この記事が『TAKUMARO'S MAGAZINE』のVol.1、創刊号になる。

The article was presented by 『TAKUMARO' S FACTORY』 ,

<https://www.factory-takumaro.com/>

as a part of 『TAKUMARO' S MAGAZINE』 in 2017.

© takumaro 2017, Printed in Japan.